

平成13年度特別展

東寺領垂氷庄

4月28日(土)～6月3日(日)



重要文化財 聖徳太子絵伝(四天王寺蔵)

悪党の時代



国宝 室町幕府御教書(京都府立総合資料館蔵)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

■休館日／5月1日・7日・14日・21日・28日

■観覧料／大人500円(400円) 高・大学生250円(200円)

小・中学生100円(80円)

※(一)内は20名以上の団体割引 ※第2・4土曜日は市内小・中学生は無料

■講演会／●5月6日(日)午後2時

「東寺領垂氷庄の時空」 帝塚山大学教授小山靖恵氏

●5月27日(日)午後2時

「東寺百合文書の伝来とその意義」摂南大学名誉教授上島有氏

会場／両日とも当館講座室

■展示解説／5月12日(土)午後2時 当館特別展示室

※会期中一部展示替えがあります

吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL06(63338)5500

平成13年度特別展

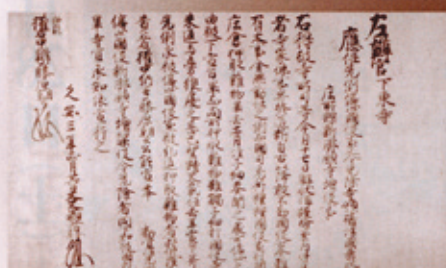
東寺領垂水庄

— 悪党の時代 —

莊園は、中世においては社会・経済の基盤となっていました。かつて、吹田市南西部から豊中市南東部にかけて所在した垂水庄は、弘仁三年（八二二）に東寺領となり、平安時代から戦国時代まで東寺の重要な莊園として存続しました。この垂水庄は、東寺に伝来した「東寺百合文書」などによって、その経営や支配体制などをたどることが出来ます。

鎌倉時代末期から南北朝時代に台頭してきた悪党と呼ばれる集団は、莊園に侵入して、年貢の押領などを行い、莊園領主の支配に対抗しました。垂水庄においては、鎌倉時代末期ごろから、芥川を本拠に成長してきた芥河氏が悪党を率いて侵入し、東寺の支配をおびやかしていました。とくに、芥河氏一族である芥河貞継は在地支配権をめぐり、長年にわたって東寺と抗争を続けました。

今回の特別展では、垂水庄と芥河氏に関する「東寺百合文書」「東寺文書」などの文献史料や絵画資料・考古遺物を展示します。貴重な資料をご覧いただき、中世垂水庄の世界を思い描いていただければ幸いです。



重要文化財 宮内省蔵 東寺蔵



国宝 摂津国垂水庄差図 京都府立総合資料館蔵



重要文化財 足利義満像 鹿苑寺蔵



交通案内

- JR吹田駅・阪急千里線吹田駅から
桃山台駅前ゆき・山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
阪急山田ゆき・千里中央ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
- JR吹田北口から
五月が丘南ゆきバス「五月が丘西」下車徒歩7分
- 阪急千里線南千里駅から
JR吹田ゆきバス②③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
- JR東海道本線岸辺駅下車北西徒歩25分
- 車でのご来館は、佐井寺北・五月が丘方面からお願いします。